

## 『地域研究のためのフィールド活用型現地語教育』

### 平成 22 年度派遣報告書

—エジプト・アルディーワン、ガーデンシティ校、ヨルダン・カシッド、  
アラビア語、H22. 12. 21-H23. 3. 21—

平成 22 年入学

大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

博士課程 1 回生

遠藤 春香

#### 自身の研究テーマについて

筆者の研究テーマは、12-13 世紀に活躍した神秘主義哲学者、イブン・アラビーの思想研究である。存在こそが唯一の实在だという思想を基にした彼の「存在一性」の理論は、後代のイスラーム世界に多大な影響を及ぼした。その思想的影響は今もなおイスラーム世界の各地で窺うことができ、また彼の思想を受け継ぐイブン・アラビー学派に属する人々も、脈々と存在し続けている。

多岐にわたるイブン・アラビーの思想の中でも、「完全人間」(*insān kāmil*) の理論は重要な思想的位置を占めている。完全人間とは、神人合一を果たし、神秘道の最高の境地に到達した理想の人間のことを言う。完全人間は、神の創造以前の原初の段階において神の姿に似せて造られ、それゆえ神の持つあらゆる名を内に統合している。この諸々の神名がそれぞれの持つリアリティーを外界に顕現させることで、世界にある様々な事物は存在にもたらされる。

完全人間を中心としたイブン・アラビーの思想は彼の死後、その思想を引き継ぐ者たちによって体系付けられ広められた。だがイブン・アラビー自身の思想研究は多くあるものの、弟子たちの思想を扱ったものについては、まだ数は少ないと思われる。そのためイブン・アラビー以降、完全人間の思想が時代ごとにどのように解釈され、展開してきたのかを考察したい。特に、オスマン朝期のイブン・アラビー学派に焦点を当て、その思想を文献を通じて読み解きたいと考えている。

#### 研修言語の概要

研修言語であるアラビア語は、ニュースや本などで用いられる正則アラビア語 (フスハー) と、日常会話の中で人々が使用するアラビア語 (アーンミーヤ) とに分かれている。フスハーはアラビア語圏を通じて共通のものであるが、アーンミーヤは地域ごとに発音、単語などが少しずつ異なってくる。例えばフスハーで what にあたる単語は mā もしくは mādhā であるが、エジプトのアーンミーヤでは ē であり、ヨルダンでは shū という言葉を使う。

#### 語学研修の内容について

エジプトの語学学校ではマンツーマンの授業が行われ、2 時間半の授業を週 5 日というコースを受講した。予習、復習の時間を含めると 2 時間半でも十分な長さであった。基本的にはテキストに沿って授業が進められ、日常生活で遭遇する出来事に基づいた会話文を中心としていた。それとは別に、新聞の記事を読んだり、音楽を聴いたり、詩を読んだり、ある話題について議論を行うなど、臨機応変に授業

を行ってくれた。またこちらから授業内容についての要望を言うと、すぐに対応してくれた。政変によりエジプトを離れたため結局行われることはなかったが、2ヶ月目からは日本から持参した研究に関する本を、一緒に読み進めることになっていた。

ヨルダンの語学学校でもマンツーマンの授業を受講し、1日2〜3時間授業を受けた。授業内容は、生徒のレベルに合った文章を読み、問題を解き、その内容についてディスカッションをし、自分の意見を書くといった具合に、読む、書く、聴く、話す訓練を総合的に行うものであった。学校側に体系だった授業プランがあり、先生も教え慣れているという印象を受けた。授業関連以外にも、ヨルダンのデモについて、アラブの価値観や慣習についてなど、こちらが様々な質問をする度に快く説明をしてくれた。

どちらの学校でも、どうしても理解できない場合にのみ部分的に英語を用いるほかは、授業は全てアラビア語（フスハー）で行われた。そのため多くの単語、表現を身に付けることができた。



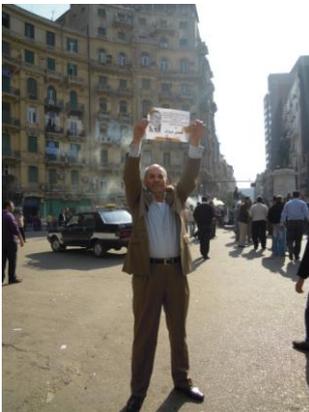
ヨルダンの語学学校での授業風景

### 研修期間中に印象に残った体験や経験

エジプトでは一月後半からデモが起こり、警官が通りからいなくなった。しかしその際、一般市民が自発的に交通整備を行っていたことが印象に残っている。また町で出会う多くの人々が心配をしてくれ、安心する言葉をかけてくれたりするなど、拡大するデモの一方で、市民の気さくさと優しさに触れることができた。

ヨルダンでは、現地の知り合いとともに、中心街近くの広場で行われた民主化を求める決起集会に参加し、またリビア大使館前で行われたデモ集会を見てきた。民衆パワーの高まりと底力を感じた体験であった。

エジプトでもヨルダンでも親日の人に多く出会い、日本という国への尊敬の念をあちこちで感じる事ができたことは、嬉しい経験である。また、現地で出会った友人の家族が家に招いてくれたり、食堂でたまたま隣に座った夫婦が昼ご飯をごちそうしてくれたり、客をもてなし喜ばすというアラブの文化を様々な場所で感じる事ができた。



エジプトのデモに参加していた男性



在ヨルダンリビア大使館前でのデモ集会の様子

## 目標の達成度や反省点

当初の目標は、研究に関連する本と一緒に読み進めてもらい、研究に関係のある単語を多く身に付けることであった。だがデモの影響でエジプトでの授業が中断し、ヨルダンでは語学学校のプログラムに沿って授業が行われたため、この目標を達成することができなかった。またヨルダンに移動してから語学学校を新たに見つけ授業を開始するまでに時間がかかったこともあり、3 か月あった研修期間のうち2 か月程しか学校に通うことができなかったことにも悔いが残る。

しかし学校に行かなかった期間には、毎日町で生きたアラビア語に触れるようにした。さらに現地の友人たちにフスハーを使って会話をしてもらうことで、アラビア語の理解力を向上させることができた。その結果当初は全くアラビア語を話すことができなかったが、研修の終わりの方には、フスハーを用いて自分の考えを伝えることができるようになった。また辞書は手放せないものの、アラビア語の文章を読むことにも抵抗がなくなったのも大きな進歩であると思う。